

1年生『二十被爆』鑑賞　2015年1月

ともしび
共生委員会ニュース

5号　2015年　2月26日版

共生・校外学習委員会は平和や共生に関わる活動、修学旅行などを担当する教員の委員会です。原爆投下の地、長崎を訪れる2年生の修学旅行だけでなく、高等部の3年間の生活を通じ、同じ社会に共に暮らす様々な人々との関わりに目を向け、平和や共生の問題を考えていきましょう。この共生委員会ニュースでは、様々な経験をする機会を得た生徒や教員の声も他の多くの皆さんへ届けたいと思っています。その経験を共有し、一緒に考えるきっかけとして下さい。

1年生『二重被爆』を観て

1年生は進級して今年の11月には修学旅行で長崎へ行きます。先日1月22日の学年集会では、修学旅行の事前学習として、広島と長崎で2回被爆した山口彊(つとむ)さんを扱った『二重被爆』を観ました。生徒の感想を紹介します。

HR102　T.S.

私はこの話を授業で読んだとき、山口さんは原爆という悲劇を二度とおこさないため、世界に向けてたくましくスピーチしているものだと思いました。しかし、現実には違ったことをこのビデオで思い知らされました。広島、長崎と二度被爆した山口さんが語るスピーチは、とてもはかないけれど、力強い言葉でした。当時の出来事を語っている映像をみると思いだしてしまい、言葉にするのが本当に辛そうでした。また、原爆を受けた直後、自分が二重被爆者だと言い出せなかったことと、後遺症という身体と心にできた傷はとても私には想像できません。それらを乗り越え、あの場に立っている山口さんは本当にすごいと思います。映像の中で聞くことの多かった「One for all, all for one」という言葉は今でも耳に残っています。“all”というのは誰のことか、私たちはその意味をはき違えてはいけないと思います。自分の家族だけでもない、日本人だけでもない世界のために、何が正しいのか、それを考えていかなければいけません。また山口さんは「人間同士だから良心があるはず、話し合いができるはず」だとも言っていました。だから私たちは良心を持ってしっかりと現実と向き合い、山口さんの願いを叶えるべきだと思います。決して山口さんは自分たちを苦しめたアメリカに復讐しろ、などと言っていません。むしろ、アメリカの学生たちにもこの出来事を伝え、未来を託しています。

二度と非人道的な行為を起こさぬよう、私たちはこの出来事を胸に刻みこみ、今、何が正しくて間違っているのか、歴史を繰り返さないよう判断していくことが大切だと思いました。

第１回 FOR 会

第1回 FOR 会（大学生と共に被災地支援ボランティアについて考える会）が、2015 年 1 月 27 日（火）放課後　15:45～17:15　、大会議室にて行われました。

夏休み中に ALL 青山の一員として高等部代表生徒達と共に被災地岩手県立宮古市へ訪問した大学生達がこれまでの活動を報告し、被災地支援ボランティアについて一緒に考える会が行われました。未来《Future》のための意見《Opinion》をもう一度考える《Reconsider》会という意味で、大学生によって FOR（エフ・オー・アール）会と名付けられました。

被災地ボランティアを行ってきた 7 名の大学生が会を進めてくれました。高等部生からは 15 名ほどの生徒が集まりました。



第一部では、各団体「Message for 3.11」、「Youth for Ofunato」のメンバーから、これまで行ってきた支援活動の報告でした。震災直後から現地訪問する度にどのように変化してきたかの映像や活動中の多くの写真を見せてくれました。ドロ掻き出しなどのから、祭り開催、コミュニティ―形成支援、子どもの教育支援まで様々な内容が行われていました。「役に立とうと思って行ったが、与えられたことのほうが多かった」、「ボランティアと被災者という線引きなく、共にいるということが重要だった」など、活動を通した思いが伝えられました。



第二部では、5 名程度の小グループにそれぞれ大学生も加わり、用意されたテーマについて、ディスカッションしました。テーマ①「『東北』魅力ってなんだろう」に対しては「美しい自然」、「美味しい食べ物」、「強い人々と地域に根ざした文化」、「東京の高校生がゲームセンターなどに費やす時間を自然と関わり人と直接コミュニケーションを取っていること」などの意見が、テーマ②「今日からできることはあるだろうか」に対しては「関心を持ち続ける」、「現地へ出向くための情報が知られていない」から「アンテナを張る」、「少しでも興味を向けてもらえるように広めることを何かする」、「郷土料理をふるまい、安全性を発信する」、「浮かんだことを行動に移すこと」などの意見が、テーマ③「仮設住宅におけるコミュニティ形成ってどんなだろう」に対しては「楽しませることも大事だが、話をするきっかけを作ることがコミュニティ形成につながる」などの意見が出されました。



短い時間でしたが、改めて被災地のことに目を向け、大学生、高等部生、高等部教員が分け隔てなく同じ問題について共に意見をやりとりすることができた時間となりました。今後、多くの高等部生が参加するように、繰り返し開催していく予定です。

ボランティア部紹介

HR208 I.R.

皆さんはボランティア部の活動内容をご存知でしょうか？

月に一回ある「えびす青年教室」と学期に一回ある寿地区での炊き出しが主な活動です。

「えびす青年教室」では毎月、第４日曜日に知的障害を持った方々と一緒に３つのクラブ[カフェ(料理作り)・けんこう(スポーツ等)・アート(製作や音楽)]に分かれて活動します。また、クリスマスなど特別なイベントが近いときにはみんなで部屋を飾り付けたり、お菓子を作ったりして楽しく過ごします。初めは初対面の人たちとちゃんと活動できるのだろうかと不安でしたが、大人のボランティアの方々や青山学院大学のボランティアステーションの先輩方もサポートしてくださったり、青年教室の生徒さんたちも困っているときには声をかけてくださるので今では楽しく活動できています。

寿地区での炊き出しは、他の学校のボランティアをしている生徒さんと一緒に、ホームレスの方々に雑炊を作って食べます。普段は関われないような人たちと話したりするのはとても刺激になります。

他に、募金活動も適宜行っています。最近では広島の土砂災害、フィリピンでの洪水の際に高等部エントランス、カフェテリアにて募金活動を行いました。文化祭では毎年、バングラデシュのグッズ等を売っています。売り上げはバングラデシュの方々の生活を支えたり、寺子屋を作る資金になります。象をモチーフにしたキーホルダーやポシェット、可愛いキャンドルやベンガルティーなど、いろいろなものを売っていて、お陰さまで毎年完売となっています。

また、古切手や書き損じハガキ、使わない CD や DVD も随時教員室前で集めているのでご協力お願いします。アジアや福島への支援となります。



活動に興味がある方はぜひ声をお掛けください！

【お知らせ】

◎青山学院から Child For Japan を通じて支援する子ども達のいるフィリピンを訪問するプログラム(3/24～30)に、６名の高等部代表の生徒が参加します。

◎平和・共生に関する活動に興味がある人は武藤、相良、藤本、中久木、キャロル、ベリーまで。

◎次回共生委員会ニュースに掲載する文章を募集中です。（武藤まで）

◎カフェテリアの掲示板に平和・共生に関する募集などの掲示をはじめました。
学校へ案内が来たものを特に取捨選択せず、掲示しています。
特に学校から推薦するというものではありませんので、イベントなどに参加する場合、保護者の方に相談し、各自の責任で申し込みをして下さい。

ボランティア部　寿地区炊き出し

横浜の寿地区は、日雇い労働者の街で簡易宿泊所が立ち並び、ホームレスの人も多いところです。寿地区での炊き出しに参加して雑炊作りを手伝ったボランテイア部員の感想をお伝えします。ボランティア部ではないけど、炊き出しに参加したいという人は片山先生へ相談して下さい。



A さん

「食事のありがたみを改めて感じました。食べている途中に話しかけてくれた男性が、ここにいる人たちは、一日に一食、食べられなかったりもするんだよ、と教えて下さいました。これからは、当たり前ではないということを忘れないようにしたいと思います。」

B さん

「（炊き出しに参加しての発見したことは）野宿者を襲う人たちが近年増え深刻な問題となっていること、それなのに野宿者はその人たちを恨んでいないこと、一生懸命働いて 10 時間働いても 900 円など苦しい生活をしていることなど書き切れない程多かったです。」



C さん

「今までホームレスというと少し怖いイメージや近寄りがたいイメージがあったけれど、炎天下で活動をしていた私たちに『大丈夫？』と声をかけてくださった方もいました。私が今日、非常に強く思ったことは無知ほど恐ろしいものはない、ということです。何も知らずに個人が勝手なイメージを抱き、それらが積み重なって今のような弱者が生き辛い世の中になってしまったのだと思います。」

D さん

「なんとなく、怖い、話しにくいイメージを持ってしまっていたのですが、実際は明るく楽しい話をしてくださる方もいて、自分の間違いに気が付きました。また、その後、ビデオを見てホームレスの方々の厳しい現状を知りました。そして、私たちも出来ることは少ないですが、できることはやっていきたいと思いました。」

E さん

「ホームレスの方々と関わるのもはじめてだったので、自分の視野が広がったような気がする。今日、来るまでにもっていた偏見などもあったが、炊き出しを体験していろんなお話を聞けたりして自分の考えが変わった」

F さん

「『こんな世界があったのか』失礼かもしれませんが、寿地区に来て初めて出てきた感想がこれです。思っていた以上に路上で生活している方、日雇い労働をしている方々の生活は大変そうでした。国際的な問題(難民問題 etc.)をよく話し合う機会が多かった私にとって、日本にもこのような側面があったのかと驚きでした。将来、なりたい自分、大学や進路で自分を見つめ直す時間が多かったため『本当にできることはこれだけなのか』と考え直すいいきっかけにもなりました。